



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 8 (通巻315号) 1993年8月

ABA 書籍展 見て歩記

報告者が比較的自由的な立場での ABA 参加であった事と、初めてのブック・フェアということで、『私的な見て歩記』になりますが、印象に残った事を2〜3ご報告いたします。

《まず、マイアミの事》

訪問中の4日間がアメリカのナショナル・ホリデイと重なった事と、連日雨にたたられたせいばかりではないと思うのですが、世界の人々が憧れた【常夏の楽園】というイメージは今日のマイアミにはありませんでした。

ダウンタウンのモール街も再開発中のビジネス街も、車は行き交うのに殆ど人通りが無く、テレビや映画で見る未来社会のゴーストタウン的な印象でした。

現に雨に濡れた歩道には物乞いの姿や、行場の無さそうな若者達の姿が見られ、出歩くことの危険性さえ感じられました。ABA の行われたコンベンションセンター(マイアミ・ビーチの近く)への海岸沿いの建物群も、見捨てられ朽ち果てたリゾート地という印象でした。もちろん高級ブランド品を売るショッピング街やマイアミらしいリゾート地も場所によっては在るようですが。

《おおまかな ABA 書籍展の印象》

今回の ABA マイアミは前回のカリフォルニア、前々回のニューヨークに比べ参加出版社数が2割以上も少な

かったそうです。開催地が米国経済の中心地から遠かったことと、開催日が米国の祝日(メモリアルディを含め3連休)に重なったことなどが原因のようでした。

全体の印象としては、アメリカ国内の書店向けの実践的なブックフェアという印象で、ニューメディア商品など新しい時代の本や関連商品があまり見られませんでした。(この点は国際的なフランクフルトとは性格が違うのでしょうか?)

出展商品はベストセラーものや一般的な読み物が圧倒的で、美術・ビジュアル書は思ったより少なかったようです。アメリカの出版界もご多聞にもれず低成長と不況感が強く新たな企画商品が少なく、大型企画もほとんど無いとのことでした。

《一般書の CD-ROM 化》

こうした中、Baker & Taylor や Putnam のブースでみた CD-ROM 商品は、これからの未来商品として、大変興味深いものがありました。CD-ROM がただ新しい商品だと言う以上に、商品的な奥の深さを感じさせられました。映像処理とデータ処理的な特色では、本の形態を完全にしのぐものがあります。こうした内容から美術・絵本関連書と辞書類が、CD-ROM に置き換えられ、20種類前後の商品がディスプレイセットされ書

ABA 書籍展見て歩記	1	JBIA セミナー	3	フォーティー・ラブ合宿報告	5
理事会報告	2	石内さんの思い出	3	洋書輸入協会史(80)	6
お知らせ	2	関西支部	4	広告	8

店頭で販売されている様子です。Baker & Taylor
ではブースのかかなりの部分をこの商品に使い、コンピュー
ターでのデモを見つめる大勢の人で賑わっていました。

《Dorling Kindersley と日本の出版社》

Dorling Kindersley 社の図解出版物は岩波書店、同
朋舎出版など日本語翻訳版が全てベストセラーとなり、
4～5年先の企画商品まで翻訳の予約が入っていると
言われており、今、日本の出版社が最も注目する出版社の
ようです。こうした噂を裏付けるかのように、ブースの
前を通るたびに、絶え間なく日本の出版社らしい人々が

交渉している様子が見て取れました。

もちろん会場では多くの洋書同業者の人々もお見かけ
しましたが、それ以外の日本の方々（出版社、その他異
業種らしい人々等）もかなり目に付きました。

皆さん精力的に動き回っており、日本企業のバイタリ
ティと抜け目無さには、本当に感心させられました。

報告にかえて、

丸善株式会社 洋書センター 御営業部 和田周平

理事会報告

7月19日(月)

- (一) 丸善(株)関根氏は取締役退任に伴い理事長代理を新任
の丸善取締役書籍事業部長中田安昭氏と交替した。
- (二) 7月12日(月)付、総務委員会での検討に基づく6
月分の収支について、総務委員長の報告を承認した。
- (三) 先の理事会で結論持ち越しの日経記事に対する反論
を、筆者石原理事が医学書院常務取締役及びJBIA
理事の肩書で発表することを承認した。

- (四) 7月7日の東京国際ブックフェア運営委員会で当フ
ェアの運営にあたるリードインターナショナルよりブ
ースの申し込み状況は現在7割で8月末にはフルにな
る模様とのことであった。

なお、バーゲンセールに関し会場や費用の点で曖昧
であるため、理事会として更に交渉に当たることとした。

おしらせ

次の通り移転通知がありましたのでお知らせします。

株式会社 トッパン

営業開始 平成5年8月30日(月)

新住所 〒101 東京都千代田区神田小川町3丁目
1番地 フレーベル館ビル

電話 (03) 3295-3461(代)

ファクシミリ(03) 3293-5963

電話およびファクシミリ番号に変更はありません。

第25回 洋書まつり '93

洋書輸入協会主催合同セール

とき 1993年10月22日(金)・23日(土)

22日 10:00～18:00

23日 10:00～17:00

ところ 東京古書会館 千代田区神田小川町3-22

電話 03-3293-0161

当日直通 03-3295-2828

(国電・御茶の水駅、

都営地下鉄新宿線・神保町または小川町下車)

JBIA セミナー「米国における雑誌取次業について」の報告

先般、米国シンシナティ市で開催された SLA (Special Libraries Association) 大会出席に関連して開催された JBIA セミナーについてのレポートを JBIA 事務局より会員の皆様に送らせていただきました。この誌上では皆様に既に配布したレポートを要約さらに追記事項を加えさせていただきます。

米国における雑誌取次業は我国における外国雑誌取次業の性格と異なり、米国を中心とする北米系の雑誌取次業務が主体で個人や小口の購読者は対照とされており、すべて図書館や機関による一定量以上の雑誌購読者を顧客としているので実際の定期購読誌市場の規模は我国の外雑市場に比較してその割合は少ないようです。

1960年代までは雑誌出版社は雑誌取次店に対し現在より大幅な割引を与えていたため取次店も雑誌の表示価格からそれ以下で取次サービスを提供してきましたが1970年代より雑誌の値上がりと共に反比例して割引率が低下、現在では我々業者の間で俗称されているマークアップ又はサービスチャージという名称のもとに個々の雑誌に対して手数料を加算されています。この加算の率や額については各取次店によって異なり、大口の取引になると率も下げられ現在では8～9%が平均的なサービスチャージ(マークアップ)といわれており取次店の経営環境を厳しくしています。

この市場における激しい価格競争に敗退し数多くの雑誌取次店が1980～1990年に廃業、吸収合併により消滅し、現在は FAXON と EBSCO の二大流通業者と一部欧州系 (SWETS DAWSON など) や欧州資本の入った取次店 (READMORE/BLACKWELL など) が市場で

激しい競争を行っています。この為に生き残った業者は更に吸収合併による経営規模の拡大や大型コンピュータ導入による図書館オートメーション業への参入、チェックインサービス、電子ドキュメントデリバリー業や CD-ROM 出版への参入を計りマーケットシェアの拡大に努めてきています。

ここ数年の世界レベルの不況は図書館市場を直撃し、また電子出版の普及は印刷された情報媒体を侵食しつつあります。一方1980年代よりの将来の市場に対して巨大な技術投資をしてきた大口取次店の経営環境は厳しく、特に FAXON 社はこの影響を大きく蒙っているようです。

我国の外国雑誌市場は欧米の取次店にとって大変魅力のある市場に映ることと思います。しかしながら他のアジア諸国と異なり JBIA を中心とする流通ネットワークが市場を押えているので新規市場参入も他のアジア諸国のケースと異なり容易ではないようです。

一方、我々の外雑業者も外資系の激しい価格攻勢や新サービスに悩まされていますが他の業種と違って流通サイドにおいても消費者サイドにおいても巷に言われている非関税障壁があまり存在しないと言う事実は皮肉なことです。いずれにせよこのレポートを通じて JBIA メンバー、特に外国雑誌取次部門に従事されておられる方々にとっていささかでも皆様の業務の指針としてお役に立つことができればこのセミナーも大変有益であったと考える次第です。

雑誌・ニューメディア委員会
委員長 山 川 隆 司

(株)東光堂書店会長

石内さんの思い出

石内さんにはじめてお会いしたのは昭和15年頃だったと思います。

その頃の日本は経済的にも世界中から圧迫を受け、貿易赤字に苦しんでいましたので、洋書の要求はあっても、私共洋書輸入業者は外国送金を、きびしくチェックされ、規制されていました。

そんな事情下で、確か読売新聞だったと思いますが、取材に対して、父が種々話した記事が、写真入りで載っ

たのを石内さんがお読みになり、突然訪ねて来られました。

色々お話しするうちに、石内さんは丸善の労働争議のリーダーの一人で、待遇改善の要求は受け入れられたが、あとで彼だけ責任をとらされた方だったのです。奇しくも処断の責任者は父と丸善で同期の、生涯の親友・伊藤常務だったそうです。

父も昔は丸善の洋書部に勤めていましたので、時代は

違っても、先輩、後輩だったのかと、急に親しみを増して行った様でした。

以後、石内さんは神田の東京堂の横のお店から、末の妹さんと二台の自転車を連ねて、東大廻りの時など、繁々とお寄りになるようになりました。

後に、あの妹さんは東京大空襲の時になくなられたそうで、本当にお気の毒なことでした。

それから石内さんは、父の唯一の趣味の囲碁の弟子になり、時々碁盤を囲んでおられました。

太平洋戦争が勃発してからは、言論の統制はいよいよ厳しく、元富士署の刑事がきて、私の店の棚からもMarxの四文字が付いている本は、どんな本でも持って行ってしまいました。

その頃、石内さんは明け方警官に踏み込まれ、一度は隣の屋根づたいに逃げおおせましたが、とうとう捕まえられ、巣鴨に入れられてしまいました。

あの素敵な貞子おば様は“今は未亡人になったのよ”と、髪を刈上げにしてお店を守っていらっしゃいました。父は石内さんが共産党員だったとは知らなかったの

驚きましたが、あの真面目な青年の為に役に立つならと、弁護側の証人になり、一所懸命でした。数カ月後、憔悴して釈放された石内さんを伊豆の温泉にお連れしたりしていました。

その後は、私が石内さんのスキーの弟子になり、十歳位の可愛い少女だった一人娘の直美ちゃん（去る12月に亡くなった東光堂の前社長）も成長されて、石内さんを中心に10人余りのスキーの同好会『ホーラの会』が出来、後に直美ちゃんと結婚された、お上手なヤッチャン事、小田安行さんや一級・二級の方々と、私の弟、理（株・マテマティカ社長）も加わり、全員、リーダーをパパ・パパと呼んで楽しく滑って歩いたものです。こんな家族ぐるみのお付き合いの為、36年前、ご夫妻に弟・理の結婚式の仲人もして頂きました。

17年前、父の葬儀の時、石内さんが弔辞を呼んで下さり、今、私が石内さんの思い出を書くとは、五十余年が夢のようです。

福 本 和 子

関西支部だより（終章）

関西支部長杯さよならコンペ

このたびの関西支部解散に伴い、ゴルフクラブも20年の伝統に終止符をうつこととし、4月24日（土）関西ゴルフクラブで“さよならコンペ”を行いました。

想えば、昭和48年（'73）3月16日能勢CCで、記録なき発会式をあげてから20年、関西支部長杯28回、東西対抗杯16回（7勝7敗2分）、業界の交流の場として数々の楽しい思い出を残して参りました。

とくに、天城に始まる東西対抗戦は、第2回恵那峡で、文化厚生委員会より立派な“東西対抗杯”が寄贈されて盛り上がりを見せ、セルフで廻った大島、夜を日について車でかけつけた賢島の決戦、飛騨に、仙石に、久美浜に、富士に、伊豆に、浜松にと、果ては、玉野の霧に消えた幻の対抗戦と、回想は盡くるところを知らず、それも、これも、ゴルフと言う摩訶不思議なものを共有する

人達のノスタルジャーかも知れません。

ともあれ、関西支部GCのメンバーの方々、72会の諸兄、長い間の楽しい時間を有難うございました。今後とも、よきゴルファーとして、健康でご活躍下さい。

第28回 4月24日（土） 関西ゴルフクラブ

参加者 6名

Gro. Hcop. Net.

優勝	松永泰吉（北尾書籍）	93	19.2	73.8
2位	谷口定三（厚生社）	85	10.8	74.2
3位	前田俊雄（ブックマン）	84	9.6	74.4

（5年ぶりの開催でしたので、ダブルペリア方式を採用。採り切りの関西支部長杯は、この20年、ついに花嫁の介添人に終始された谷口氏に贈呈されました）

関西支部 G.C. 世話人 松永泰吉

フォーティー・ラブ会（テニス同好会） 春季合宿報告

平成5年4月10日(土)～11日(日) 於：津久井湖畔プチビラ

フォーティー・ラブ会の今年度春季合宿・練習試合は、4月10～11日の週末2日間、恒例の津久井湖畔プチビラにて開催。日帰り組も含めて、総勢25名ほどの参加者をみた。幹事や実技指導の役割を受けもつベテラン会員約10名は、4月9日(金)の夜、会社の職場より直行。まずはメスレー(白梅)が折しも満開のプチビラ内コテージにて、春宵の前夜祭を愉しむ。今回は、各社のVIPで奥様同伴で参加もあり、カップル組との試合は、ベテラン会員組にとっても、白熱したゲーム展開となり、充実した練習試合であった。若手女子社員で初心者組の参加もあったが、実技指導担当ベテラン会員のコーチングは、懇切に、しかしまた大量の練習ボールを投じて行われたので、硬式テニスの基礎をまずは体得して頂けたものと思う。今回は、天候にも恵まれ、時にプチビラ自慢のメスレー(白梅)の果樹並木と桜の巨木並木の同時満開で、都心では見られないような大自然の樹林の緑葉と芳花に包まれたテニスコートで、白熱したゲームの展開となった。当会では、特にトーナメントは行わず、まずは初心者への実技指導、会員同志の親睦練習試合、楽しい食事と談笑、食事後はコテージに引き上げてからの反省会もかねた楽飲小宴会と全てはインフォーマルなスケジュールで運営。昨1992年は、4月、8月、11月計3回合宿。トムソン・インター社の外人若手勢、ロングマン社の〇社長夫妻と夏季休暇で来日の長男の3名参加等で、顔触れは国際色も豊かであったし、憶い出に残る試合も多い。

さて、当フォーティー・ラブ会では、今年度の残り2回の合宿練習行事を、夏季は8月21～22日、秋季は10月下旬又は11月上旬の週末に予定している。1泊2日間の

参加が無理な方は、土曜日から日曜日のいずれか1日の日帰り参加も可能。午前9時迄に、プチビラに集合、チェックインして頂ければ、日帰りでも、更衣室、浴室、シャワーのご利用は自由。昼、夕食も希望どおり予約可能、テニス練習の後は充分にリフレッシュして頂けるよう幹事が万全の手配。

今後、初めての参加希望者各位に、若干のアドバイスを差し上げておきたい。

当会は、硬式テニスの入門者、初心者の方々を常時歓迎し、ベテランの会員諸兄達が、どなたに対しても、基礎から実戦の練習試合まで、懇切に実技指導を行う。初心者の方々は、ラケットとテニス・シューズだけ持参すれば、たとえ日帰り参加でも、硬式テニスの実技全般に亘って、実戦的な指導を受け、練習試合にも挑戦して頂けるはずだから、得難い体験になると思う。

なお、当会行事への参加は、家族同伴組も歓迎している。因みにプチビラの充実したリゾート施設をご紹介すれば、夏季は、特設のスイミング・プールで水泳も楽しめる他、多目的グラウンドやプレイフィールドではサッカー練習、ミニゴルフ、キャンプもできる。敷地約7千坪のプチビラには、草原、果樹林(キウイ棚、メスレー並木等)や大樹も多く、昆虫採集やバードウォッチングにも最適だ。秋季は津久井山麓の紅葉が見事な眺め。プチビラの自慢は特製メスレー・ワイン。山・野・川の幸を賞味できる食事もうまい。(カラオケ設備も完備。)テニス練習参加のついでに、津久井湖畔の大自然の理想郷を散策されたり、各種スポーツを楽しまれることをお奨めする。

(ジュース・アゲイン・サーバー/W生)



洋書輸入協会史 (80)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

92 昭和36（1961）年度のその他の出来事

92.1 税関へ提出のインボイスに、フォトコピーの代用が認められる……通関手続簡素化の補遺

昭和36（'61）年10月25日の理事会において、従来は通関時に、オリジナルのインボイスを2通提出するよう要求せられていたが、これが10月1日以降2通のうちの1通はフォトコピーで代用することが認められた旨の報告があった。これは日本関税協会発行「貿易実務ダイジェスト11月号」に載せられている。（JBIA 会報 Vol. 27 No. 2 1993年2月号所載、協会史77の87章、「通関の手続き簡素化」の補遺）

この件は、コピー機が普及しその技術が向上している今日においては、何でもないのでように見えるが、当時としては画期的な措置であった。即ち、海外から送られてくるインボイスは、普通1通か精々2通で、通関の際にオリジナル2通を提出するためには、海外出版社から3通ないし4通を送って貰わなければならない。海外出版社にそれを言っていると、何故そんなに沢山必要なのだと不思議がるし、いくら言ってもそれに応じない所もある。小口のインボイスが数多くある洋書の場合、オリジナル2通の提出は、全く手間の要する仕事で、困っていたところであった。

92.2 書籍、雑誌の換算率

昭和36（'61）年8月頃の業界某大手の売価換算率を、参考のために記録にとどめると、次の通り。

記

	Book	Subscription
US \$	400円	450円
Stg. £	1,200	1,260
D. M.	105	110
F. FR.	90	95
D. GL.	120	125
S. FR.	100	105

92.3 関西支部にてストックリスト発行

昭和37（'62）年2月23日の理事会に、関西支部長の

海外書籍貿易、野崎氏が出席し、関西支部にて発行したストックリストについて報告があった。それによれば、ストックリストの発行については好評であり、中間集計では相当売切れている由である。

92.4 指定通貨廃止

昭和37（'62）年2月7日より、指定通貨が廃止され、すべて free となった旨、2月23日の理事会で報告された。（通商弘報 昭和37年2月7日付 No. 3679 所載）

93 McGraw-Hill をめぐる諸問題

93.1 購読者への直接の継続案内と、円価での指定銀行振込み依頼

昭和37（'62）年に入ってから、米国の McGraw-Hill Subscription Agency から、同 Agency の取り扱っている日本の予約者の所へ、直接に Renewal 案内が届き、これに円価が表示され、予約金を指定した銀行に振り込むようにとの連絡が付けられていることが判明した。

購読者直接に Renewal 案内が届くのは、これは他にも例があって、望ましいことではないが差し支えない。ただし日本での商習慣では、Renewal 案内は予約を取り扱った洋書輸入・販売業者の仕事であり、出版元は継続の注意は喚起しても、継続注文を直接自分のところへ取り、予約金を直接自分の所へ振り込むよう連絡するのは、商習慣に反するという考え方がある。換言すれば、取次店（日本で言えば洋書輸入・販売業者）経由で受注した出版社は、継続の際にもその取次店を立てるべきだというのが日本の考え方である。

この件は3月の理事会でも問題となって、McGraw-Hill Sub. Agency へ抗議したが、一向に改まらず、重ねて日本の購読者への同様の継続案内が届いている。そこで5月16日から約2ヶ月間米国へ出掛ける予定の McGraw-Hill Book Company の日本代表稲垣氏を、同所員玉川氏と共に5月8日の理事会に招き、協会の全面的な反対の意を説明し、協会側の抗議文を渡米時に Subscription Agency へ渡し、事情を説明してくれるよう依頼した。

また McGraw-Hill の Book Company については、代表として稲垣氏が居るので、大変意思の疎通が良いが、Sub. Agency の日本代表は居ないので、もし Sub. Agency 側が承知すれば稲垣氏にその代表も兼ねてくれないかと申し入れた。

なおこの件は解決が遅延すると他の米国雑誌への影響も懸念されるので、解決を急ぎ、6月始めには改めて McGraw-Hill Sub. Agency の Manager, Mr. F. W. Gerhardt 宛抗議の手紙を出すなどの対策を講じている。

7月10日の理事会には、米国出張を終えたばかりのユーエス・エシァティック・カンパニーの山川社長が出席、その報告によれば、山川氏は McGraw-Hill Sub. Agency を訪問、折良く稲垣氏と同席したが、その際に次のように取り決めたとの話しがあった。即ち、Sub. Agency 側は、洋書輸入協会から申入れた三つの提案のうち二つを了承、ほぼ満足出来る結果を得られたとのこと。理事一同もこの解決法に同意し、この問題はこれにて一応の終止符を打つこととなった。

なおこの席上の山川理事の話では、McGraw-Hill Sub. Agency は、非常に大きな仕事に発展しており、全世界からの米国出版の雑誌の注文は何でも扱えるように、また諸サービスを改善すべく努力中とのことであった。

93.2 McGraw-Hill の Book の返品問題

昭和37('62)年5月8日の理事会に、McGraw-Hill の稲垣氏と玉川氏が出席した際に取り上げられた問題のもう1つは、McGraw-Hill 側が、返品条件付きの standing order の返品受け取りを渋る傾向が出てきたということである。

これに対し稲垣氏の説明は、McGraw-Hill が日本から返品された新本を他の国からの受注に回したところ、McGraw-Hill は古本を新本として売りつけるのかという抗議を受けた由。そこで日本からの返品は、Resalable Condition (Mint Condition) でなければならぬという従来の条件を厳しく適用することとしたとのことであった。稲垣氏によれば、McGraw-Hill の International Division は、同社の出版部門から本を買い取って取引先に提供しており、従って返本の再販売が出来ないと、そのまま同部門の負担になるので、次第に厳しくなっているという観測がある。

この説明を受け、理事会側と意見の交換をした結果、

稲垣氏は渡米の折に出来るだけ full returnable の線を先方に押すが、輸入側としては出来るだけ返品が少なく済むような standing order をやって貰いたいと主張し、理事会は、返本受け取りを寛大にすることが sales 拡大の途である旨を強調、稲垣氏にこの点を先方に申入れ、説明してくれるよう申し入れた。なお理事会側は返品の際に、good condition のものを選ぶように留意することを伝えている。

この返品の condition の件については、7月26日の協会の臨時総会の折りに、帰日した稲垣氏が出席し、次の報告があった。即ち、稲垣氏が McGraw-Hill に行って返品の状態を実地に見てみたところ、日本の某洋書輸入業者の返本が置いてあり、それが見るからに荷作りが雑で、その上釘が本の中まで通っているという状態であった。これではいくら何でもひどすぎるという感じをもった由。なお、McGraw-Hill は返本されたものを綺麗に化粧する機械まで備えつけて、出来る限りのものを full credit すべく努力しているので、先方が credit を認めないものはよくよくのものだろうということを確認してきたとのこと。従って、そういう場合は悪しからず了承して欲しいとの稲垣氏の話しであり、一同それを了承した。

93.3 McGraw-Hill Subscription Agency の Manager, Mr. F. W. Gerhardt 来日

昭和37('62)年10月1日の理事会に、来日中の Mr. Gerhardt が稲垣氏、玉川氏と共に出席、種々な問題についての質疑応答や討論があった。印象に残った同氏の話は次の通り。

- (1) Cannot Export の注がある雑誌について。大部分のアメリカの雑誌は広告費で賄われている。そこで海外にその広告の製品が売れる見込みがないと思われる場合は、広告主の方でその雑誌の輸出を断る場合がある。
- (2) Trade Only の雑誌に必要な trade information は、広告主のためのものである。自分の製品の広告の効果のある所だけにしたいというため、もし広告効果のない所へ雑誌を売ると、例えばある雑誌では1年に\$30.―の損が出る由。なお Trade Only は、日本だけでなく全世界に対するものであるから、これがなくなることはないであろうとのこと。

(続く)

At the heart of the English language...



LONGMAN DICTIONARIES 

For your sample section and FREE worksheets contact:
Longman ELT, Gyokuroen Building, 1-13-19 Sekiguchi,
Bunkyo-ku, Tokyo 112. Tel 03 3266 0404 Fax 03 3266 0326

1993年8月 通巻第315号 洋書輸入協会
〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社